

2017年2月19日

## 福音書からのメッセージ

しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

(マタイによる福音書 5章 44節)

人はどうしても、何かをされたらやられた以上のことをしてしまいます。傷をつけられたのは片方の目だったのに、相手の両目を傷つける。そしてそれがどんどんエスカレートして、最終的には命の奪い合いにまでなるのです。

そうならないようにと決められたのが、「目には目を、歯には歯を」でした。やられた以上のことはやるなというのです。つまり同等の報復は、禁じられてはいませんでした。しかしイエス様は、その戒めに新たな一言を付け加えられます。

そのときイエス様の周りで話を聞いていた群衆の多くは、疲れ果てていました。それこそ、右の頬を打たれるようなこともあったでしょうし、訴えられ下着を取られることもあったでしょう。不条理に歩かされることも。

群衆は思っていたかもしれませんが、イエス様だったらこの現実から解放してくれると。しかしイエス様は言われます。右の頬を打たれたら、左の頬を向けなさい。下着を取られそうになったら、上着も渡しなさい。一ミリオン行けと言われたなら、倍の距離を行きなさい。その苦しみから解放してくれると思いきや、正反対です。

このイエス様の言葉は、我慢を強いているように聞こえるかもしれませんが。しかし果たしてそうでしょうか。ただ歯向かわずに、復讐もしないのであれば、右の頬を打たれたら、じっと歯を食いしばっていたらいいわけです。下着を取られたら上着だけを着て耐えたらいいのです。一ミリオンが過ぎるのを、じっと待てばよいのです。しかしイエス様は、それ以上のことを要求さ



れます。求められた以上のことを与えるようにと言われるのです。たとえそれ

が不条理であっても与える。それは同時に、その相手にさらに関わることでもあるのです。

その相手は、わたしたちからすると「敵」と言ってもいいかもしれません。その敵に関わり、さらに愛するようにとイエス様は言われるのです。自分に危害や損害を与える人を愛する、その人と関わっていく。そんなことができるでしょうか。

でもイエス様は確かに、敵を愛せとわたしたちに命令をされています。それは、神さまがまず、わたしたちを愛して下さったからなのです。神さまは悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださいます。このようなわたしたち、愛することすらできないわたしたちに、光も水も与えてくださるのです。わたしたちは決して完全な者ではありません。しかしこの神さまの愛をシャワーのように浴びたのだから、あなたたちも周りの人たちに与えなさいと言われるのです。

イエス様が命じておられるのは、具体的な行動です。自分が嫌なところに、一歩足を踏み入れることです。神さまの愛に包まれ、歩いていくことなのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>